
帰ってきた新一・・・

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

帰ってきた新一・・・

【NZード】

NZ8397M

【作者名】

【あらすじ】

組織を壊滅後のお話です。

工藤新一の選択した相手は。。。。

ただいま

意味わかんない！！！！！

新一は帰つてきた！

でも、

そこに私の居場所はなかつた。

新「蘭、らーん！　ただいま！　帰ってきたんだ、待つてくれてありがとな、それじゃ、またなあ！」

蘭「えッ？ 新一！ 新一――ツ！」

なにそれ、 、 、 、 、

それだけ？

新一はそれだけ言うとさつさと帰つていつてしまつた！

感動の再会を期待してたのに、
、
、
、
、

いつぱい待つたのに

ずつとずつと会ったかっただよ、何があったのか話してもくれないの？

新一は？

どおして？

『待つてくれ』っていったのに
そんな軽いものだったの？
私が期待しすぎてたの？
納得できないから、、

ちゃんと説明してもらわなきゃー何があったのかも聞いてないもん！

ピンポーン ピンポーン

蘭「新一一ツ」

昨日の新一の態度に納得のいかなかつた蘭は工藤邸まで来ていた

いないのかな？

志「はーいツ」

、、、力チヤ

蘭「え、、、、誰？」

志「こんにちは。何か御用？」

蘭「あ、、あなた誰なの?どおして?新一は?」

志「私は志保よ!新一ね、呼んでくるわ、待つてて」

蘭を玄関に一人のこし新一を呼びに行ってしまった、、、

蘭は新一ではなく志保がでてきた事でかなりパニックになり
どおして?なんで?どおゆう関係?などと蘭頭のながはハテナマー
クでいっぱいだった

新一は？（後書き）

まだ続きます。

迷惑なの

誰なのよ？

蘭が考えこんでいると家の奥で新一と志保の声が少し聞こえてきた
志「あなたにお密様よー。」

新「密？服部か？」

志「違つわ、蘭さんよ」

新「蘭？なんでまた？」

志「私に聞かないでー早く行つてあげなせこよー。」

新「わーつたよー。」

蘭（え？、、、、「ーして私の名前知つてるの？なんか、迷惑なの
かな？）

私名前ゆつたつけ？などと考えていると奥から少し面倒臭そぶりに
歩いてくる新一がみえた。

新「よお蘭ー、おしたんだ？」

蘭「ちよつと話しあつて、、、」

新「話しか、長くなるのか？」

蘭「う、うん、
（ダメなのかな？）」

新「じゃあ中で話すか？」

蘭「いいの？」

新「ああ」

迷惑な（後書き）

じじよで読んでくれてありがとうございます。

これからもおへこみください。

知りたい（前書き）

読みにくくてすまません？

知りたい

蘭「わざわざします」

蘭はおそるおそる上藤邸に入つていったそこは蘭が来ていた時より手入れがこぎどごして綺麗だった

リビングのソファーに座ると見計らつゝに煎れたてのコーヒーが運ばれてきた

志「どうぞ」

蘭「どうも」

新「サンキュー。」

コーヒーを出すと志保はキッチンに帰つて行つた

蘭（今まで私がしてたのに、お姉さんなんだ、）

キッチンの方に消えていく志保を羨ましそうに眺めていた

新「蘭、話しつてなんなんだ？」

蘭「ちよつと待つてーその前に一つ聞きたいんだけど、志保さん？彼女は新一の彼女なの？」

新「彼女じゃないぜ、」

この時蘭は新一の意味深な笑いを見逃していた

蘭（よかつた、彼女じゃないんだ！）「さつき話してるのは少し聞こえたんだけど、どうして私の名前知つてたの？」

新「さあ？母さんに教えられたんじゃないか？母さんとアルバム見てたしな！」

蘭「そ、そおなんだ！」

（アルバム？なんで新一のお母さんと見てたんだろう？）

新一のお母さんとアルバムを見る事は少し引っかかる『彼女じゃない』と言つ新一の返答に少し安心して次の質問をはじめた

蘭「あ、聞きたい事があつて来たんだった！新一これからどうするの？あと、忙しかった事件はどんな事件だったの？」

少し空気が重くなる

一瞬が長い沈黙に感じられた、

新一が重たい口を開いた

新「蘭、、、これからは探偵業に専念したいんだ、事件の事は蘭には関係ないから話せない」

蘭「え、、、、？」

蘭は田が点になっていた、今までどんな些細な事件でも事細かに説明してくれていた新一がそんな事を言つなんて微塵も思つていなかつた、ましてずっと心配しながら待つていた人に言つ言葉ではない

蘭「待つてたのにーずっと心配してたのに、少しくらい教えてくれてもいいじゃない！ー！」

蘭は爆発した、ヽヽヽ

新「落ち着けよ、心配かけて悪かったよ、『待つてくれ』って言って蘭に重荷をせおわしちまつたのもわかつてゐ、だから『死んでも帰る』つてコナンの坊主にも頼んだんだ

蘭「じゃあ、ヽヽヽ、『だから、ただいまつていつたろ？』

新一は蘭の言葉に被せて喋つてきた約束はもう守つたと、もう待つている必要はない事を強調するよつこ

変化（前書き）

遅くなつてすみません！

んー、これからどうしようか・・・

変化

離れていた間に新一は随分と変わってしまったような、複雑さでなんとも言えない気持ちだった、、、

沈黙が続いて部屋には重たい空気が立ち込めていた

蘭「確かに『ただいま』とは言われたけど、どうして? 関係なくはないんじゃない? 前はどうなに小さい事件でも話してくれた!」

新「前は話しあげてたんだよ、」

蘭「そお、、、なの?」

(私は新一の事全部知りたいのに)

「志保ちゃんーん! ただいまー」

パタパタ、、、パタッ

志「お帰りなれこ、お母さんー。」

新「母さん、早かつたな?」

有「新ちゃんいたの? 志保ちゃんいないといつまらないから帰つてきちゃつた フフ」

新「母さんはほんとに志保大好きだな」

有「あたり前じゃないの～ こんな可愛娘ども探してもいな～じゃ
ないの～」

新「悪かつたな、可愛くねー息子で！」

有「あら、新ちゃんすねちやつたの？ 可愛～ アハハ

志「はい、お母さんアイスコーヒーです。暑かつたでしょ？」

有「ありがと～ 本当気が利くわあ

新「当たり前だろ！」

蘭は三人の話しを聞いていて疑問が生まれていた

有「あー！ 蘭むちゃん！ いらっしゃい 久しぶりね

蘭「おじやまします、」

（会話に入れなかつた、 、 、 有希子さん帰つてきてたんだ？お母さ

んとか娘とかゞおゆつ事だらかへ志保さんと一体・・・・?)

蘭「あの、」

有「な～に蘭ちゃん?」

新「どおした、蘭?」

蘭「その、、志保さんがどおして新一の妹さんを『妹さん』
て呼んでるの?」

有「なあ～んだ、そんな事?志保ちゃんは、私の娘になつたのよ、
ね～新ちゃん!」

新「ああ」

有「蘭けやさよつーつ半上なの、仲良へしてあげてね
」

蘭「はこー。(< >)」

有「新ちゃんへつべづべタントナムヒタシマハッタヒー・本當、
長かつたわ～。」

蘭(ん?新ー?へタレッヒ~)

志「改めて、工藤志保よ、ヨロシクね。」

蘭「毛利蘭です、いじりやがれこべ。しません。」

有「蘭ちゃんー!」飯食べてく?久しづぶり?」?

蘭「はい!」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8397m/>

帰ってきた新一・・・

2011年9月9日17時14分発行